様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

# 科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月　７ 日現在

機関番号：３２６８２
研究種目：基盤研究(A)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｈ０００３２

研究課題名（和文）双方向ネットワーク環境を活用したオンラインによる日本墨書土器データベースの構築

研究課題名（英文）Constructing an Online, Interactive Database of Ancient Japanese Pottery with Ink Inscriptions

研究代表者
吉村　武彦（Yoshimura, Takehiko）

明治大学・文学部・名誉教授

研究者番号：５００１１３６７

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　33,800,000円

研究成果の概要（和文）：　研究の基礎となる墨書土器研究文献目録は2446点を数え、明治大学の日本古代学研究所のホームページで公開している。これまでの墨書土器研究に関する研究を網羅している文献目録である。また、双方向性をもつ墨書土器データベースは、北海道を含め、日本列島全域のデータベースが完成できた。約15万点の墨書土器を収録しており、日本全国の墨書土器に関する比較研究が可能になった。
これまでの墨書土器研究を総括した『墨書土器と文字瓦』（八木書店、2023年）を刊行した。出土文字史料としての性格、韓国・中国・ベトナムの墨書土器、墨書土器の諸相、遺跡のなかの特徴という４方面から、墨書土器研究を総括した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
今回の研究で、北海道を含む日本列島の各都道府県（沖縄県を除く）の墨書土器（刻書土器を含む）のデータベースが完成した。この成果で日本墨書土器の列島全域の研究が可能になった。しかも、本データベースは検索機能をつけたほか、釈文等に関する利用者の意見を表明できるような双方向性をもたせたことが特徴である。国内外の漢字文化圏にかぎらず、世界各地からアクセスが可能であり、誰でも利用して墨書土器のデータを知り、研究ができる。これが最大の学術的な研究成果であり、社会的意義である。また、データベース以外にも、『墨書土器と文字瓦』を刊行し、東アジアからの視点でこれまでの墨書土器研究を総括することができた。

研究成果の概要（英文）：We have compiled the nation-wide database of some 150,000 images of pottery with site names, time period, and other necessary archaeological information. The geographical coverage is from Hokkaido to Kyushu. This has laid the foundation for future research and allows comparative research among different regions and areas. We have also compiled a bibliographic database of ancient Japanese pottery with ink inscriptions, consisting of 2446 entries. This data base is available on internet in the homepage of the Meiji University Research Institute of Ancient Japanese Studies. We have also published the results of our long-term research as a book, entitled Bokusho Doki to Moji Gawara [Ancient Japanese Pottery and Roof Tiles with Inscriptions] (Yagi Shoten, 2023). The book discusses this subject from the four perspectives.

研究分野：日本古代史

キーワード：墨書土器　刻書土器　出土文字史料　データベース　墨　日本古代史　歴史考古学

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

## １．研究開始当初の背景

文字・文献史料が極めて少ない日本古代史の研究領域では、出土文字史料である木簡・墨書土器（刻書土器を含む）・文字瓦などが貴重な史・資料群となっている。木簡に関しては、奈良文化財研究所（奈文研）が木簡データベースとして「木簡庫」を公開し、研究に寄与している。墨書土器に関しては、本研究の開始時点では、本データベースが存在するに過ぎなかった。しかし、科研費の採択によって、全国的な墨書土器データベース構築が継続できた。

本研究では、墨書土器の「遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体」に関する詳細な全国的データベースを構築することを主目的とした。そして、墨書土器研究を集成した「墨書土器研究文献目録」と一緒に、明治大学・日本古代学研究所のホームページで公開してきた（http://www.kisc.meiji.ac.jp/~meikodai/)。その後、検索機能を追加した墨書土器データベースとして発展させており、今回の研究では利用者の意見が反映できるように、双方向性をもたせたデータベースとして成長してきた。

日本墨書土器データベースの公開は、すでに『史学雑誌』(史学会)や『日本歴史』(日本歴史学会）をはじめとする日本古代史学界で高く評価されてきた。また、各都道府県の現地で墨書土器を調査する埋蔵文化財センターなどで活用され、今日に至っている。

## ２．研究の目的

日本古代史の研究分野では、研究史料となる文字・文献史料が極めて少ないため、考古学の発掘調査で出土する木簡・墨書土器（刻書土器を含む）・文字瓦などの出土文字史料が重要な史・資料群となっている。５０万点に及ぶとされる木簡（文字が判読されるのは限定される）は、奈文研による「木簡庫」という木簡データベースとしてネット上で公開されている。木簡につぐ数量をもつ墨書土器は、本研究が明治大学の日本古代学研究所のホームページにおいて約１５万点になる「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース」として公開し、日本古代史研究に寄与してきた。日本国内における画像情報付きの墨書土器データベースを完成・公開することは、古代史研究を発展させるために必須の研究である。しかも、全国的規模でデータベースの構築を試みる研究は本研究しかない。

毎年、墨書土器は各地から出土しているので、墨書土器データベースを拡充していくことが重要であり、文字史料の少ない古代史研究では必要不可欠である。一部の県・市などの自治体史においては、自治体史の編纂事業としてデータベースが作成されてきた。しかし、自治体史の刊行後は終了するのが現状である。研究を発展させるためには、全国的なデータベースの構築を継続する必要がある。

また、墨書は漢字・記号で銘記されることが多いので、日本の墨書土器を韓国・中国などから出土する墨書土器と比較する、東アジア的視野をもつ必要がある。そのため、韓国・中国を含めた墨書土器研究を発展させていくことも、同じ東アジアの漢字文化圏の研究として重要である。木簡などは朝鮮半島の影響がみられるので、韓国研究者との連携は重要となる。日本の出土文字史料は、中国南朝と百済の影響が強いと想定されるが、現地の研究者の協力を得て、共同研究として発展させていきたい。

３．研究の方法

歴史学や史料学においては、データベースの構築それ自体が重要な研究の営みである。墨書土器（刻書土器を含む）に関係する発掘調査報告書・調査概報・地方史誌などの報告書資料・文献から調査して、データを集成していくことから始まる。本大学博物館図書室における調査からはじめ、必要な報告書等の購入のほか、各地域の博物館・埋蔵文化財センターに出張して、各種文献の複写・収集を行う。各地域の研究協力者の支援をえて、各地の出土文字史料を収集し、日本全国の墨書土器研究文献目録の作成と全国版データベースを構築する。

データベースの構築は、各都道府県単位（令制国を配慮）で行うが、墨書土器が出土した関連報告書・文献から墨書土器のデータを集成する作業から始める。墨書土器は、主に発掘調査によって出土するので、各地における出土文字史料に関心がある研究者・発掘担当者らと連携し、墨書土器関係の遺跡とその文献調査を実施する必要がある。

墨書土器に関する各種情報データ（釈読文・実測図、遺跡名・所在地・出土遺構・出土状況・時期・器質・器種・寸法・記銘部位・記銘方向・字体）を収集する。作業としては、各地の墨書土器関係の情報（発掘調査報告書・調査概報・地方史誌など）を調査して表形式のカードデータとして作成し、電子媒体化するという地味な作業である。そして「全国墨書土器・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース」として、ホームページに公開する。

墨書土器が出土する地域の歴史的意義を解明するため、出土文字史料が豊富な下総国府・国分寺地域（千葉県市川市）を対象に、地域研究を重ねて実施する。さらに、日本墨書土器の特徴を明確にするため、韓国・中国出土の墨書土器と比較研究を行う。

４．研究成果

研究の基礎となる墨書土器に関する研究文献は、考古学・古代史関係の学術誌所載の文献、明治大学博物館図書室・明治大学図書館などにおける研究文献・発掘調査報告書等を調査して作成する。2023年度末で2424点を公開している（まもなく2446点を公開）。研究文献リスト（墨書土器研究文献目録）は引き続き、明治大学日本古代学研究所のホームページで更新していきたい。墨書土器研究の基礎となり、また全国の墨書土器調査・研究者のデータとして共有したいので、最新情報を集成して発信したい。

また、吉村武彦・加藤友康・中村友一の研究分担者に、川尻秋生（研究協力者代表）を加えた４名で『墨書土器と文字瓦－出土文字史料の研究－』（2023年1月）を刊行した。本書では、韓国・ベトナム研究者との共同研究も掲載した。さらに国際学術研究会「東アジアからみた出土文字史料・墨書土器」（2023年8月）では中国・韓国の研究者を招聘し、広く東アジアの漢字文化圏の視点から研究している。

『墨書土器と文字瓦』は、従来の墨書土器研究の総括を試みた学術書であり、研究協力者の研究成果も網羅して、第一部「出土文字史料としての墨書土器・文字瓦」、第二部「日本と東アジアの墨書土器」、第三部「墨書土器の諸相」、第四部「遺跡のなかの墨書土器」の四部構成とした。この刊行で、墨書土器と文字瓦（同じ土材製品で比較研究が必要）に関する研究の到達点を示した。

なお、初年度からコロナ禍（新型コロナウイルス感染症 COVID-19）と重なったため、

一時は大学博物館図書室・大学図書館が閉鎖され、データ収集作業は大幅に遅れざるをえなかった。さらに悉皆調査のために、各地に出張してデータ集成する作業もできず、暫定版の公開に留まってきた面がある。また、新サーバに切り替えたが、セキュリティの面から、一時、外国からのアクセスを遮断せざるをえなかった時期があった。

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計9件（うち査読付論文　0件／うち国際共著　0件／うちオープンアクセス　1件）

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．巻<br>900 |
| ２．論文標題<br>固有法から律令法へ―井上光貞の研究法 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>日本歴史 | ６．最初と最後の頁<br>37-44 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．巻<br>2022 |
| ２．論文標題<br>渡来系技術の導入と古代山城 | ５．発行年<br>2023年 |
| ３．雑誌名<br>熊本県教育委員会編『渡来系技術から見た古代山城・鞠智城』 | ６．最初と最後の頁<br>89-108 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．巻<br>2 |
| ２．論文標題<br>『令集解』明治大学本の書誌的研究序説 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>明治古代史論叢 | ６．最初と最後の頁<br>97-111 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．巻<br>2021 |
| ２．論文標題<br>律令国家の辺要政策と肥後国・鞠智城 | ５．発行年<br>2022年 |
| ３．雑誌名<br>鞠智城シンポジウム2021成果報告書 | ６．最初と最後の頁<br>33-58 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>加藤友康 | 4．巻<br>15 |
| 2．論文標題<br>国府のなかの国司館―国庁と国司の館― | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>山口県立大学学術情報 | 6．最初と最後の頁<br>32-43 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>加藤友康 | 4．巻<br>1･2 |
| 2．論文標題<br>古記録の筆録と書写・部類・流布―『小右記』書写本を中心に― （附）史料集の翻刻を考える | 5．発行年<br>2022年 |
| 3．雑誌名<br>『「格・式研究を踏まえた日本古代社会像の再構築」・「古代の 百科全書『延喜式』の多分野協働研究」講演会記録集』 | 6．最初と最後の頁<br>67-125 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉村武彦 | 4．巻<br>2 |
| 2．論文標題<br>律令制国家の辺要政策 | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>九州国立博物館アジア文化交流センター研究論集 | 6．最初と最後の頁<br>151-158 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスとしている（また、その予定である） | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉村武彦 | 4．巻<br>139 |
| 2．論文標題<br>三輪山・ヤマト王権と東国 | 5．発行年<br>2020年 |
| 3．雑誌名<br>大美和 | 6．最初と最後の頁<br>17-36 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>－ |

| | |
|---|---|
| 1．著者名<br>吉村武彦 | 4．巻<br>2020 |
| 2．論文標題<br>鞠智城と地域社会 ―「辺要」としての地域のなかで ― | 5．発行年<br>2021年 |
| 3．雑誌名<br>『地域社会からさぐる古代山城・鞠智城』 | 6．最初と最後の頁<br>7-21 |
| 掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子）<br>なし | 査読の有無<br>無 |
| オープンアクセス<br>オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難 | 国際共著<br>― |

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　6件／うち国際学会　0件）

| |
|---|
| 1．発表者名<br>吉村武彦 |
| 2．発表標題<br>出土文字史料の歴史と墨書土器 |
| 3．学会等名<br>国際学術研究会「東アジアからみた出土文字史料・墨書土器」 |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>吉村武彦 |
| 2．発表標題<br>ヤマト王権と信濃・諏訪 |
| 3．学会等名<br>第22回信州風樹文庫文化講演会（諏訪市立信州風樹文庫）（招待講演） |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| 1．発表者名<br>吉村武彦 |
| 2．発表標題<br>ヤマト王権と東国・ふさ |
| 3．学会等名<br>特別展「奈良へのまなざし－馬来田から望陀へ－」記念講演会（招待講演） |
| 4．発表年<br>2023年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉村武彦 |
| ２．発表標題<br>律令制国家の辺要政策と大宰府 |
| ３．学会等名<br>九州歴史資料館　特別講演会（招待講演） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉村武彦 |
| ２．発表標題<br>渡来系技術の導入と古代山城 |
| ３．学会等名<br>熊本県　特別講演会（パレアホール）（招待講演） |
| ４．発表年<br>2022年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>加藤友康 |
| ２．発表標題<br>『小右記』と説話・言談とのあいだ―『古事談』を手がかりに― |
| ３．学会等名<br>『小右記』シンポジウム、共催：新しい古代史の会 |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉村武彦 |
| ２．発表標題<br>難波津の歌、歴代遷宮と王陵の移動 |
| ３．学会等名<br>国際学術講演会「交響する古代ＸＩ、明治大学（オンライン） |
| ４．発表年<br>2021年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>吉村武彦 |
| ２．発表標題<br>聖徳太子の実像と飢人伝承 |
| ３．学会等名<br>奈良県王寺町　東京講演会「聖徳太子の実像と片岡の飢人伝承」（招待講演） |
| ４．発表年<br>2020年 |

| |
|---|
| １．発表者名<br>加藤友康 |
| ２．発表標題<br>国府のなかの国司館―国庁と国司の館 |
| ３．学会等名<br>シンポジウム「都市「防府」の形成と周防国 府の謎」（招待講演） |
| ４．発表年<br>2020年 |

〔図書〕　計18件

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>岩波書店 | ５．総ページ数<br>416 |
| ３．書名<br>日本古代国家形成史の研究 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>384 |
| ３．書名<br>『墨書土器と文字瓦』（「出土文字史料の歴史」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>岩波書店 | ５．総ページ数<br>341 |
| ３．書名<br>『古代人の一生』（「男と女　人の一生」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>KADOKAWA | ５．総ページ数<br>270 |
| ３．書名<br>『シリーズ地域の古代日本　畿内と近国』（「王宮・都と京・畿内制」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>加藤友康 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>吉川弘文館 | ５．総ページ数<br>226 |
| ３．書名<br>『『小右記』と王朝時代』（「『小右記』と説話・言談とのあいだ」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>加藤友康 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>384 |
| ３．書名<br>『墨書土器と文字瓦』（「墨書土器と情報伝達」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．発行年<br>2024年 |
| ２．出版社<br>雄山閣 | ５．総ページ数<br>372 |
| ３．書名<br>『日本書紀の成立と伝来』(「広域地名を冠する氏族から見る『日本書紀』」) | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．発行年<br>2023年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>384 |
| ３．書名<br>『墨書土器と文字瓦』（「飛鳥・奈良時代の文字瓦」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>482 |
| ３．書名<br>『律令制国家の理念と実像』（「東国・諸国への使者派遣と大化改新詔」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>加藤友康 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>KADOKAWA | ５．総ページ数<br>266 |
| ３．書名<br>『シリーズ地域の古代日本　出雲・ 吉備・伊予』（「国府と鋳銭司」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>482 |
| ３．書名<br>『律令制国家の理念と実像』（「氏族・部の制度と存在形態」） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>塙書房 | ５．総ページ数<br>510 |
| ３．書名<br>日本古代の政事と社会 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦・川尻秋生・松木武彦（共著） | ４．発行年<br>2022年 |
| ２．出版社<br>KADOKAWA | ５．総ページ数<br>264 |
| ３．書名<br>東アジアと日本 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦（佐々木虔一・川尻秋生・黒済和彦編、共著） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>八木書店 | ５．総ページ数<br>554 |
| ３．書名<br>馬と古代社会 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一（佐藤信編、共著） | ４．発行年<br>2021年 |
| ２．出版社<br>筑摩書房 | ５．総ページ数<br>284 |
| ３．書名<br>古代史講義【氏族篇】 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>吉村武彦 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>KADOKAWA | ５．総ページ数<br>408 |
| ３．書名<br>編著『新版 古代史の基礎知識』 | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>吉川弘文館 | ５．総ページ数<br>223 |
| ３．書名<br>『テーマで学ぶ日本古代史 政治外交編』（氏姓制と部民制） | |

| | |
|---|---|
| １．著者名<br>中村友一 | ４．発行年<br>2020年 |
| ２．出版社<br>吉川弘文館 | ５．総ページ数<br>262 |
| ３．書名<br>『テーマで学ぶ日本古代史 社会史料編』（『万葉集』） | |

〔産業財産権〕

〔その他〕

明治大学日本古代学研究所から発信しているデータベースは以下の通りである。
墨書土器研究文献目録
https://www.isc.meiji.ac.jp/~meikodai/obj_bokusho.html
全国墨書土器・刻書土器、文字瓦 横断検索データベース
https://bokusho-db.mind.meiji.ac.jp/

## ６．研究組織

| | 氏名<br>（ローマ字氏名）<br>（研究者番号） | 所属研究機関・部局・職<br>（機関番号） | 備考 |
|---|---|---|---|
| 研究分担者 | 加藤　友康<br>(Kato Tomoyasu)<br>(00114439) | 明治大学・研究・知財戦略機構（駿河台）・研究推進員<br>(32682) | |
| 研究分担者 | 中村　友一<br>(Nakamura Tomokazu)<br>(00553356) | 明治大学・文学部・専任准教授<br>(32682) | |

## ７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計1件

| 国際研究集会 | 開催年 |
|---|---|
| 東アジアからみた出土文字史料・墨書土器 | 2023年～2023年 |

## ８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

| 共同研究相手国 | 相手方研究機関 |
|---|---|